

共同利用機関の歴史とアーカイブズ2005

総合研究大学院大学

共同利用機関の歴史とアーカイブズ 2005

葉山高等研究センター研究プロジェクト「人間と科学」

研究課題

「大学共同利用機関の成立に関する歴史資料の蒐集と
わが国における巨大科学の成立史に関する研究」

2005年度報告

総合研究大学院大学

- ・ 本書は、2006 年 4 月 24 日、25 日に、総研大葉山キャンパスで開催されたワークショップ「共同利用機関の歴史とアーカイブズ」の講演をもとにまとめたものです。
- ・ 肩書き等は、当時のものを使用しています。

はじめに

平田 光司 総研大・葉山高等研究センター 教授

本書は総研大葉山高等研究センタープロジェクト「人間と科学」の課題「大学共同利用機関の歴史（正式名称：大学共同利用機関の成立に関する歴史資料の蒐集とわが国における巨大科学の成立史に関する研究）」の2005年（平成17年）度の活動に関する報告書です。本研究は平成16年度から活動を開始し、大学共同利用機関のアーカイブズ活動の連携により、統一した形式のシステムを構築・公開することを目的としていますが、文書資料だけでは得られない生きた歴史を伝えるオーラルヒストリーおよび質の高い映像資料を作成しアーカイブすること、またこれらを通じて大学共同利用機関の歴史研究を進め、アーカイブズに反映させることも重要な任務です。

2005（平成17）年度からは映像民族学の第一人者である比較文化学専攻の大森康宏教授のグループとも合流し、映像作成の面では技術的にも大きな進歩をとげました。また、アーカイブズを統一する方式としてEADを採用することが決まり、国文学研究資料館アーカイブズ研究系の先生方の協力によって、徐々に統一アーカイブズの形ができてきました。オーラルヒストリーについてもSharon Traweek先生のグループを中心に、実際のインタビューを行うなど、本格的な活動が開始されました。

2005年度の全体研究会は、諸般の都合で2006年4月に葉山で行われました。関連する共同利用研の歴史、アーカイブズ活動に関する講演もお願いしました。本書には研究会の講演録、および独立した論文を掲載しています。

開催挨拶

菅原 寛孝

総研大・葉山高等研究センター センター長

平成 16 年度から研究プロジェクトの一環として、わが国における大学共同研究機関の歴史についての研究が始まりました。

昨年(2005 年)開催された研究会では、国文学研究資料館の安藤正人先生から研究機関のアーカイブズについて明確な定義を下されたことを今でも印象的に記憶しています。研究リサーチ・アーカイブズは、研究の成果を広く知らしめることよりも、むしろその成果に至った研究のプロセスを資料に基づいて明らかにしていくことに重要な意味があります。しかし、そうした明快な考え方が研究機関内部に定着していない現状があるため、私は研究アーカイブズの考え方を定着させていきたいと考えています。

本プロジェクトにおいても、そのような意識の中で研究活動を続けていけば、有意義な活動ができると期待しています。残念ながら、センターの活動としてはスムーズに進んでいるという印象を抱いているわけではありません。もう少しこの分野に力を注ぐべきであろうと思っています。こういう研究会での議論を通じて、今後この研究活動をどういう方向に進めていくのか決めていきたいと考えています。そして大学共同利用機関全体として研究アーカイブズを構築していく方向性を定めていく必要があるでしょう。

現在は、高エネルギー研究所、核融合科学研究所を中心に研究アーカイブズの活動が継続され、また他の機関にもそれなりに広がりつつあるのは大変喜ばしいことであり、できるだけ多くの人や機関に、この活動の重要性を認識していただくことが大切だと思います。

本研究会において、実際のアーカイブズ活動の現状、共同利用機関の歴史など多角的な見地からの報告がなされるとともに、また今後の方針についても議論し、積極的に見識を深めていただくことを願っています。今後は、今回の研究会以外に、この分野の国際会議、学会での報告なども予定しています。

研究プロジェクトの趣旨説明

平田光司

総研大・葉山高等研究センター 教授

この研究プロジェクト「大学共同利用研究機関の歴史（大学共同利用機関の成立に関する歴史資料の蒐集とわが国における巨大科学の成立に関する研究）」で一番重要な点は、各研究機関に蓄積されているデータを整理し共有化することによって、総合的なデータベースを構築するとともに、一般の研究者にも使用可能なものにしていくことです。

それに付随して、書かれた資料だけでは理解できない、研究者の生の声や公式資料には掲載されていない歴史的事実などをオーラルヒストリー（聞き書き）によって整備していく手法も重視しています。同時に、過去の活動だけではなく、現に行われつつある研究活動についても記録を残していく必要があります。その意味でも、オーラルヒストリーは非常に重要な役割を果たします。しかもただ蒐集するだけではなく、アーカイブズとして共有化していくことが重要ですから、その意味では、オーラルヒストリーも資源共有化の大きな流れの中に位置づけることができます。

さらに、文字だけでは分かりにくい状況をリアルに伝える映像アーカイブズも重要です。多くの研究所では、8ミリフィルムなどで科学的な映像を残していますので、そういう貴重な資料も蒐集し記録として管理していく必要があるでしょう。また、オーラルヒストリーも昔はテープレコーダーで録音していますが、最近では小型化・軽量化したデジタルVTRで簡単に映像と音声記録できるようになったので、その意味でも映像アーカイブズは重要です。そこで、昨年度（平成16年度）から映像アーカイブズについても取り扱うようになりました。

このようにすべてアーカイブズとして重要ですが、本研究においては、大きく4つの領域に分け、それぞれにおいて次のような研究を行う予定です(カッコ内はそれぞれの責任者)。

①データベースの共有化(安倍)

高エネルギー研究所、核融合科学研究所などのアーカイブズ目録を共通のフレームで公開し、システム運用の経験を積む。

②オーラルヒストリー(S. トラウィーク)

共同利用機関における女性、データベース、計算機など多くの機関に共通するテーマに沿って組織的インタビューを行い、成果を公表する。オーラルヒストリー教育法を開発し、講習会を試行する。また、主要な教科書の翻訳・発行を行う。

③映像アーカイブズ(大森)

科学研究における映像記録を作成し、アーカイブズ資料とする(終了する研究プロジェクトなどを優先)。また、映像リテラシーの教育方法を開発する。

④歴史研究(平田)

共同利用機関の歴史を研究する視点について研究会を開催し、史料を生かした研究の方法を確立する。

このうち④の歴史研究は私が担当していますが、前途多難の状態にあります。というのも、全体に日本の現代科学史(特に50年前くらいから現在まで)についての研究はあまりなされていないのが現状で、資料がないなどの問題が多いからです。また、科学史研究者は、公開されているアメリカの公文書館に行き史料を集めることに注力し、自分たちでアーカイブズを作って研究するところまでいかないという側面もあります。日本の科学史についてきちんと考えるのであれば、自分たちで史料を整理しアーカイブズにしていく必要があると思います。そこで微力ながら、このプロジェクトでその活動を続けていきたいと考えています。

わが国においては、共同利用機関という非常に重要な研究形態が存在し

ていますが、それについてはわれわれ自らが、きちんとした歴史的整理をしていくしかありません。そこで徐々に着手していますが、先に挙げたような理由で、なかなか思うように進んでいないのが現状です。いろいろな困難があることも分かっていますが、体制づくりを含めて少しずつでも進めていきたいと思っています。

目次

はじめに	平田 光司	i
開催挨拶	菅原 寛孝	iii
研究プロジェクトの趣旨説明	平田 光司	v

第 I 部 総研大におけるアーカイブズ化の現状 1

第 1 章 アーカイブズ共有化計画の現状

	安倍 尚紀	3
1. プロジェクトの概略		3
2. 「情報共有化」についての現状報告		4
2. 1. ウェブページ(Webpage)等の情報発信について		4
2. 2. 実際のアーカイブズの検索手段 (finding aid)		6
2. 3. クロスサイト検索による共有化		7
2. 4. メタデータの統一による共有化		8
2. 5. 公開用のインターフェイスについて		8

第 2 章 UCBオーラルヒストリースクールで学んで

	加藤 直子	11
1. オーラルヒストリーを学ぶ経緯について		11
1. 1. 「大学共同利用機関の歴史」プロジェクトに関わって		12
1. 2. オーラルヒストリーとの出会い		13
2. 「ROHO の夏の学校」への参加		16
2. 1. 「夏の学校」に参加するまで		16
2. 2. 多様な参加メンバーと和やかな雰囲気		17
2. 3. 実際のプログラムと進め方について		18
2. 4. 少人数グループによるセッション		20
2. 5. その後のオーラルヒストリー実践に向けて		21

第Ⅱ部 共同利用機関の歴史

23

第1章 基礎生物学研究所の歴史

	長濱 嘉孝	25
1. 基礎生物学研究所設立の経緯		25
1. 1. 設立構想から創設までの3つの時期		25
1. 2. 岡崎キャンパスにおける設置から現在までの経緯		27
1. 3. 基礎生物学研究所の設立から現在までの流れ		28
1. 4. 歴代所長と設立当時の状況		30
2. 基礎生物学研究所の体制と活動		31
2. 1. 研究体制		31
2. 2. 活動の現況		32
3. 今後の展望と課題		34
3. 1. 研究体制の見直し		34
3. 2. 戦略室の設立		35

第2章 核融合科学研究所成立の歴史

	宅間 宏	39
1. 核融合科学研究所設立の経緯		39
1. 1. 核融合の2つの研究方式		39
1. 2. 核融合研設立以前の国内の状況		41
1. 3. 核融合部会の設置と活動		43
1. 4. ワーキンググループの目的と活動理念		44
1. 5. 各サブグループの活動方針		45
2. その後の核融合研究の進展		47
2. 1. 最終的な結論からの展開		47
2. 2. その後の技術的進展		48

第Ⅲ部 研究所等におけるアーカイブズ活動 51

第1章 核融合科学のオーラルヒストリー

	藤田 順治	53
1. 核融合科学におけるオーラルヒストリー研究の概要		53
1. 1. 研究の背景と意義		53
1. 2. 研究の目的		54
1. 3. 研究の経緯——インタビューの実施		55
1. 4. 調査結果の概要とまとめ		57
2. オーラルヒストリー関連手法の研究と今後の課題		59
2. 1. 関連手法研究の概要		59
2. 2. 研究遂行上の課題		60

第2章 核融合アーカイブズにおける日米協力

	松岡 啓介	63
1. 核融合アーカイブズにおける日米協力の歴史		63
2. 核融合アーカイブズに関する日米ワークショップ		64
2. 1. ワークショップ開催までの経緯		64
2. 2. 参加者及びプログラム		65
2. 3. 講演概要		68
2. 4. 意義深いアーカイブズの紹介		69
3. 日米協力の今後の展開		71
3. 1. ワークショップの意味と意義		71
3. 2. 核融合アーカイブズ活動の現状から見た問題点と今後の対策		71

第3章 核融合アーカイブズに基づいた多次元的年表の編纂

	木村 一枝	73
1. 核融合アーカイブズのデータベース化		73
1. 1. 核融合史料のデータベース化に向けて		73
1. 2. データベースのフォーマット		74

2. 多次元的年表について	75
2. 1. 多次元的年表作成のポイント	75
2. 2. 事例紹介①(山本賢三先生へのインタビュー)	75
2. 3. 事例紹介②(核融合研究の日米比較)	78
2. 4. 多次元的年表の目的と有効性	78
 第4章 東京大学宇宙線研究所のアーカイブズ活動	
森 正樹	83
1. 宇宙線研究の概略	83
1. 1. 宇宙線の性質と研究目的	83
1. 2. 宇宙線研究の歴史	84
2. アーカイブズについて	90
3. まとめ	91
 第5章 高エネルギー研究所史料室の沿革と現状	
高橋 嘉右	95
1. 高エネルギー研究所史料室の沿革	95
1. 1. アーカイブズ作業部会の設置と活動	96
1. 2. 史料室の設置と活動理念	96
2. 史料室活動の現況と今後の展望	97
2. 1. 活動の現況	97
2. 2. 今後の展望と課題	100
 第6章 分子科学研究所のアーカイブズ立ち上げ	
木村 克美	101
1. 分子科学研究所設立の経緯と体制	101
1. 1. 設置の経緯	101
1. 2. 研究体制・制度の特徴	103
2. 分子研アーカイブズについて	106
2. 1. 分子研アーカイブズの当面の目標	106

2. 2. これからの進め方.....	107
---------------------	-----

第7章 梅棹資料室の活動

三原 喜久子 109

1. 梅棹資料室ができるまで	109
1. 1. 梅棹忠夫のプロフィール.....	109
1. 2. 長く秘書として務めた立場から.....	110
2. 梅棹資料室について	111
2. 1. 資料の持つ意味.....	111
2. 2. 資料の内容.....	112
2. 3. 資料の保存方法.....	113
2. 4. 資料整理の大原則.....	116

第8章 科学アーカイブズ撮影報告

横山 広美 116

1. 科学映像アーカイブズの意味と意義.....	119
2. 科学映像アーカイブズ・プロジェクトの紹介.....	119
3. 科学映像アーカイブズの難点と今後の課題.....	123
3. 1. 科学映像アーカイブズが難しい理由.....	123
3. 2. 科学映像アーカイブズの今後の課題.....	125

第9章 映像アーカイブズについて

大森 康宏 127

1. わが国における映像アーカイブズの現状.....	127
2. スーパーカミオカンデ関連映像プロジェクトについて.....	128
2. 1. スーパーカミオカンデ映像の紹介.....	128
2. 2. 映像記録の意味.....	129

第Ⅳ部 一般論文 133

国文学研究資料館の歴史資料関係データベース

大学共同利用機関付属施設の履歴の一つとして

五島 敏芳 135

はじめに 136

1. 国文学研究資料館における記録史料管理 137

1-1. 経緯 137

1-2. 収蔵資料の概容と管理 138

1-3. 当館の記録史料情報の概容 139

2. 館外の記録史料情報 140

2-1. 「史料所在情報検索システム」 140

2-2. 「史料情報共有化データベース」 145

3. 館内の記録史料情報 148

3-1. 館蔵記録史料情報データベース 148

3-2. 記録史料関連図書等目録データベース 154

4. EAD・XMLによる展開構想：むすびにかえて 154

本書へのご意見、ご感想をお寄せください。

宛 先 総合研究大学院大学葉山高等研究センター 平田光司

e メール hirata@soken.ac.jp

FAX 046-858-1546

共同利用機関の歴史とアーカイブズ 2005

葉山高等研究センター研究プロジェクト「人間と科学」

研究課題「大学共同利用機関の成立に関する歴史資料の蒐集とわが国における巨大科学の成立史に関する研究」2005年度報告

発行日	2007 年 3 月
発行責任者	平田光司
編集	株式会社ミューズ
発行所	総合研究大学院大学 葉山高等研究センター 〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町湘南国際村
印刷所	横浜古沢工業株式会社
ISBN 4-901598-11-2	

Printed in Japan

-
- 無断複写・転載禁止
 - 本書の内容に関しては著者に責任があり、総合研究大学院大学または葉山高等研究センターまたは著者以外の共同研究メンバーの関与するところではありません。

ISBN4-901598-11-2